

令和元年度 第1ブロック活動報告

デイジー教科書の活用法 ～保護者の目線から～

大阪市立八阪中学校

井澤 陽子

まだまだ暑さの残る令和元年9月3日、大阪市立中学校教育研究会第1ブロック研究発表会が開催されました。

大阪市では、学校を通じて申し込むことによって障がいの有無にかかわらずデイジー教科書を使用できるようになっています。ただ、その認知度は低く、利用者も少ないのが現状です。

今回は、実際にデイジー教科書等の提供を受けている生徒の保護者を講師に招き、支援を要する子どもたちに対してどのように接していくのが良いのかを考えるきっかけにしたいと考えました。

マルチメディアデイジー教科書について

2008年9月に施行された「教科書用特定図書普及促進法(教科書バリアフリー法)」等の改正により、LD(学習障がい)などの発達障がいや弱視等の視覚障がい、その他障がいのある児童・生徒のための「拡大教科書」やデジタル化された「マルチメディアデイジー教科書」等が制作できるようになりました。

マルチメディアデイジー教科書は、通常の教科書と同様のテキスト、画像を使用し、テキストに音声をシンクロ(同期)させて読むことができます。

保護者のお話では、小学校中学年で「発達性読み書き障がい【ディスレクシア】」と診断がおりたそうです。

そこから、拡大教科書の手続き、タブレットのデイジー教科書持ちこみなどに向けて環境を整え、その結果、テストのデイジー化、タブレットの持ち込み、教科書の読み上げ・ルビ打ち・拡大など様々な学習支援を受けられるようになり、高学年になると特別支援学級にも在籍を決め、入り込み支援と抽出授業を受けるようになりました。

そのころには、学校が楽しい！と嬉しそうに話すようになったとおっしゃっていました。今は中1ですが、日々試行錯誤しながら元気に頑張っているそうです。

本校でも、読みにくい、書きにくいという生徒が在籍しています。黒板の字が浮いて見える、踊っていると表現する生徒もあり、日々どう支援していくのか頭を悩ませていたのですが、まずは、自分でも勉強できた！という成功体験を積み重ね、やればできるという自尊感情を大切にしていきながら、生徒一人ひとりに細やかな支援をしていくことが大切だと再認識できました。

令和元年度 第2ブロック活動報告

大阪市立今津中学校 中田 聡

第2ブロックでは、次の1と2を研究主題に活動に取り組んだ。

- 1, よりよい就学に向けて、校種間の連携をどうすすめていくか。
- 2, 再来年度から実施される新学習指導要領を見据え、各校の実情に合わせてながら、特別支援学級の自主活動の時間に生徒たちの学びの場をどう作りあげるか。

活動報告については、以下の通りである。

① 8月30日（金） 第2ブロック研究発表会

2ブロックでは、教科と領域からの発表を交互に隔年で行っている。

今年度は教科の発表が行われたため、特別支援教育からの発表は行われなかった。

② 「中養タイムズ」の執筆、11月発行

担当： 大阪市立緑中学校 大浦 純 先生

③ 月刊誌「育誠」12月号の執筆

担当： 大阪市立友渕中学校 藤井 大樹 先生

④ 大阪市「PTA だより」1月号の執筆

担当： 大阪市立城東中学校 川端 充彦 先生

⑤ 機関誌「特別支援教育」の編集作業

担当： 大阪市立董中学校 渋谷 真琴 先生

令和元年度 第3ブロック活動報告

第3ブロック特別支援教育部専門委員長
大阪市立市岡中学校 渡辺 匡崇

- 1 日時
令和元年 8月30日（金） 午後3時00分～午後5時00分
- 2 会場
大正区役所 5階 会議室
- 3 参加人数
50名
- 4 研究課題
特別支援教育の充実を図るため ～大正区役所講師による講演～
- 5 研究会の内容
 - （1） 開会のことば
 - （2） 大正区役所保健福祉課子育て支援室
丸井様、川野様、式町様による
発達障がい及び専門機関の紹介についてのご講演
 - （3） 質疑応答
- 6 研究会を企画した理由
学校と区役所の連携や専門機関との連携についての理解を深めるため。

7 研究会の成果

各区によって若干の違いはあるが、学校だけでどうにかしようというのではなく、諸機関との連携も視野に入れた幅の広い提案ができることが学べた。相談内容が合っているかどうかわからなければ、まず相談してみるという心強いお言葉が非常に参考になるものであった。

8 今後の課題

- (1) 諸機関との連携に対する知識を増やす。
- (2) 特別支援教育担当だけでなく、学校全体で特別支援教育に対する理解を深める。

令和元年度 第4ブロック研究会記録

日	時	令和元年9月3日（火）		
会	場	大阪市立三国中学校		
参 加 者	64名			
指導助言者	大阪市立柴島中学校	校長	茨木	久治
発 表 者	大阪市立三国中学校	教諭	橋本	和也
		教諭	石井	祥恵

研究会概要

研究主題である「子どもたち一人ひとりが、共に学びに向かい生きる力を育む教育をめざして」をもとに、大阪市立三国中学校で取り組んでいる「障がい理解教育」に関する実践報告を行った。また参加者を7つのグループに分けグループ討議を行い、各校での実践内容を交流した。実践交流の中で得た知識や取り組みは、今後各校の教育活動を充実させていく上で役立てていくことのできる有意義なものとなった。

《内容》

○「障がい理解教育」に関する実践報告

- ・視覚障がい者の方を講師として招き、講演会を実施した取組について
- ・生徒感想の紹介
- ・質疑応答

○グループ討議

①障がい理解教育について各校での取組に関する実践交流

取組の中での成果、課題について

②特別支援教育において、現在課題に感じていることや、今後取組んでみたい内容についての情報交流

令和元年度

ブロック研究発表会記録

(5) B	特別支援教育部	校 長	渡邊 進司
日 時	令和元年9月3日(火)	記 録 者	秋山 倫子
会 場	大阪市立新生野中学校	参加者数	39名
講師・指導助言者	インクルーシブ教育推進スタッフ(前枝 真一先生)		

◇研究発表の概要

1. 新学習指導要領について

- ・中学校の指導要領において大幅な改訂 障がい者の権利に関する条約が基本初めて障がいのある生徒や特別支援学級について明記されている。
- ・特別支援学級の教育課程において自立活動を取り入れることが明示されている。
- ・個別の指導計画において各教科についても作成に努める必要がある。
- ・中学校支援学級と特別支援学校中学部で各教科の目標や内容との連続性や関係性の整理

2. 研究協議(グループワーク)、問題点

- ・不登校への対応

登校のきっかけが支援学級となることが多い

課題福祉・医療との連携において方向性を決めづらい

○生徒への対応

約束をしたが守れなくて登校しづらい⇒できることを重ねていく

○評価について

抽出のある生徒(文章+教科と相談の上、5段階評価)

抽出特別支援学校の教育課程(到達度→文章表記)、しかし進路補償の観点から相対評価も行っている。

各校評価の方法がちがい、保護者から説明を求められる。

令和元年度

ブロック研究発表会記録

(5) B	特別支援教育部	校 長	渡邊 進司
日 時	令和元年9月3日(火)	記 録 者	秋山 倫子
会 場	大阪市立新生野中学校	参加者数	39名
講師・指導助言者	インクルーシブ教育推進スタッフ(前枝 真一先生)		
<p>○不登校への対応</p> <p>抽出の授業をきっかけに登校</p> <p>児童デイサービスの職員がサポーターになり、それがきっかけになり登校</p> <p>○困っていること</p> <ul style="list-style-type: none">・抽出の授業時、複数の生徒がいる時の授業の組み立て・教科の授業時、配慮の必要な生徒への対応・関係機関との連携 <p>チームとして支援学級の生徒の対応に当たっていく。</p> <p>各生徒の情報共有を密にしていく。</p> <p>家庭児童相談員(区役所 子育て支援室)との連携。</p> <p>3. その他</p> <p>5B特別支援教育専門委員選出</p>			

令和元年度第 6 ブロック活動報告特別支援教育活動(研究発表会)報告

6 B 特別支援教育部専門委員長
大阪市立白鷺中学校 梶田 裕史

研修内容 演題：「虐待を受けた児童・生徒 その影響について」ーいま とこれからー

今年度は、令和元年 8 月 2 日(金)に特別支援教育部第 6 ブロック研修会を大阪市立長谷川小中学校 2F 会議室にて行いました。今回は、講師として社会福祉法人 みおつくし福祉会 セラピストの角田 那奈子さんのご講演とともにきめ細かいご指導ご助言をいただきました。

研修会では、「大阪市立長谷川小・中学校のインクルーシブ教育についてー現状と課題ー」についての報告、大阪市立長谷川羽曳野学園の施設見学を行いました。

<講演の項目>

- 大阪市立長谷川羽曳野学園施設について
- 虐待（身体的虐待・ネグレクト・性的虐待・心理的虐待・重複障がい）について
- 虐待の特徴と児童・生徒への影響について
- 学習の工夫点について
- 大阪市立長谷川小学校・
大阪市立長谷川中学校・
大阪市立長谷川羽曳野学園
の施設見学 案内・説明
- 大阪市立長谷川小学校・
大阪市立長谷川中学校の
インクルーシブ教育の現状について
ー現状と課題ー 報告



上記のように項目を分けて説明してくださり、参加した教員が理解しやすく、現場で活用できる実践的な内容となりました。

<研修会を終えて>

当日の研修会は大阪市立小学校教育研究会東住吉支部「特別支援教育部」と合

同で開催しました。45名の参加をいただき、参加者からは講師をしていただいたセラピストの角田那奈子さんの経験をもとにしたご講演が非常に具体的で分かりやすく、教員一人ひとりの教育実践においてより一層、学習の工夫の大切さを再確認できる内容で、充実した研修会となりました。

令和元年度 第7ブロック活動報告

第7ブロック特別支援教育部専門委員長
大阪市立大和川中学校 朝隈 勇

《研究発表会》

日 時 : 令和元年9月3日(火)
会 場 : 大阪市立梅南中学校
参加人数 : 72名

◇ 研究会の概要

① 講演「生徒理解と指導の手だて」

住之江支援学校教諭 岩山カイナ先生（臨床発達心理士）より、障がいの特性・事例・行動問題への指導方法の基本（ABA 応用行動分析から PBS 積極的行動支援へ）・合理的配慮についての話を伺った。

発達障がいとは様々な障がいの重なりや共通する課題があること、また発達障がいとは脳の機能障がいに起因があることを知ることができた。

また様々な事例や行動問題への対応、検討シートの紹介や行動の背景と対応方法についての紹介もしていただいた。

日々の教育実践に大いに参考になる内容であった。

② 研究協議「インクルーシブ教育に関わる情報交換・意見交流」

住之江・住吉・西成の三区ごとに分かれて、インクルーシブ教育推進スタッフの山田純二先生、武田寿美子先生、多田真理子先生に入ってい

ただき協議を行った。進路指導の進め方、不登校生徒への支援の方法、保護者との連携など、疑問点や自分の学校の課題などを出し合い意見交流を図った。インクルーシブ教育推進スタッフの先生方より、非常にわかりやすいアドバイスをいただいた。

◇ 課 題

研究協議の際に予想していた人数を上回り、たくさんの人に意見を出してもらうことができなかった。当日の人数を確認してグループ分けを行う必要がある。そして意見が出やすいように事前にテーマをいくつか決めておいたほうがもっと活発な意見交流が図れたように思う。

令和元年度 第8ブロック研究発表会報告

ブ ロ ッ ク 研 究 発 表 会 記 録

(8) B	特 別 支 援 教 育 部	校 長	中 務 高 俊 先 生
日 時	令和元年8月30日	記 録 者	大 井 俊 徳
会 場	放課後等デイサービス事業所 と・らいず みーと	参加者数	20名
講師・指導助言者		NPO法人 み・らいず職員	
◇研究発表の概要			
1. 情報交流			
「各校における放課後等デイサービスの利用について」			
2. 講話			
「障がいのある方が受けられる福祉について」「み・らいずについて」「SST、就業にむけて」等 NPO 法人 み・らいずスタッフ			
3. あいさつと講評			
大阪市立夕陽丘中学校 校長 中務 高俊 先生			
4. その他			
今年度の全市の年度末研修報告会において、当ブロックの松虫中学校 西田智子教諭が「学校と福祉の連携」をテーマに研究発表を行う。それに向けて各校の放課後等デイサービス事業所との連携の状況と地域福祉に対する思いを把握したいと考えた。また放課後等デイサービス事業も含めた福祉施策について、専門家から学ぶ機会を持ちたいとも考えた。これが本研修会の主たる目的であった。			
第一部の情報交流においては、西田教諭から研究発表についての説明やアンケートへの協力依頼が行われ、それに続いて各校の福祉事業との連携の状況を自由形式で述べ合った。ほとんどの学校で生徒が放課後等デイサービスを利用していることが分かったが、「子どもたちがそこでどんなサービスを受けているのかは知らない」「各事業所の方と連携したいと思うがどうしたらいいのか」などの意見も多く、学校と地域の福祉事業所との連携はまだまだ深まっていないことが明確になった。			
第二部の講話では、地域の福祉事業所として長年のノウハウを持つ「み・らいず」のスタッフから福祉施策の基本的な事項や放課後等デイサービス事業について、大変わかりやすく説明していただいた。その中で実際の放課後デイサービス事業の様子を見学や、子どもたちに対して行っているソーシャルスキルトレーニングの実演を見せてもらうことができた。			

